

二月二十一日

七時頃起床。二階でブーツとしている。梅の木の頭が下に視えて花盛りが眼下にある。十時研究室渡辺打合わせ。今の状態を突破してくれと思うばかりだ。楽しみなさい設計を、とその事に尽きるな。十三時半東大難波研究室。今日の公開講評会会場である安田講堂には長蛇の行列であった。安藤忠雄さんはしかし、欠席との事。行列の何分の一かは安藤人気であろうから少なからぬ観客は失望するだろう。十四時クリティーク開始。スゲジュール通り十七時修了。安田講堂は満員の盛況であった。阿部・塚本・曾我部・五十嵐と私のクリティークの距離が面白かった。彼等、ユニット派と言うのかな、それに共通して流れている気分らしきものは・・・典型的な、アメリカ人と共通するフランクさ、妙なわけへだての無さだろう。アメリカン・デモクラシーの日本の表われとでも言おうか。あの人達は移植されたアメリカ文化が戦後六〇年経って日本によく根付いたアメリカ的なモノを体現している人達なのだ。山本夏彦言うところのニセ毛唐の典型である。移植されたものが実ったのだから、ある意味では人工的であり、変な匂いが無い。ワシントンに咲く桜みたいに、日本に育って咲いたカリフォルニア・ポピーの感じかな。だから、彼等と東大の学生達の間には本質的なところで相通じるものがある。双方共に人工的な感じ、移植されたものがベースになっているのではないか。それ故、私には異和感がつきまとった。私は、時に私は何者

だろうかと考える。それ故、どうしてもデザインにオリジナリティーを求める。当然の事ながら何処かに私を表わしたいと願う。彼等にはそれが無い。そして薄々それが自覚されている。計画とというのはデザインを支える基盤だと鈴木成文先生に言われたけれど、学生達の設計は生のまんまの計画であり、何にも発酵していない。学生達に通じるモノ哀しさは、それがホンノリと自覚されているからであろう。

クリティークは押え気味にしたが、二十八日だったかは早稲田の大隈講堂で公開講評会を催すのだが、修士設計、四年生の課題共に、今年の早稲田は水準が恐ろしく低いので、あんまり大口たけなかつたのだ。

講評修了後、懇親パーティー。その後、近くの日本料理屋で会食。アルクールで軽く飲んで帰る。しかし、難波先生は良く安田講堂を満員にした。それが一番印象的でもあった。

二月二十二日 日曜日

家内に車で送ってもらい、朝九時過羽田へ。十時過のJASで帯広へ。只今、十一時四〇分、もうすぐ飛行機は高度を下げ始める。昨日のメモを記し終わったところだ。十二時過帯広空港着陸。後藤さん出迎えて下さる。車で昼食。田舎ソバ工房。十四時過、ヘレンケラー塔四階で宮坂建設スタッフとセミナー棟建設打合わせ。雪降りしきる。修了後、スノーフィールドカフェへ。渡辺シエフと再会。にぎわっているようだ。十六時半北海道ホテル、チエックイン。モール温泉につかり、一時休む。この一時間程の休息で本当に一息ついた。明日の青森下田町関係の資料読む。十八時半坂本、後藤両氏ホテル来。共にスノーフィールドカフェでのディナーへ。二〇時前北海道ホテルに戻る。再びモール温泉につ

かり、体を休める。雪は降り続けている。

二月二十三日

六時過起床。まだ雪は降り続けている。千歳からの飛行機は飛ぶのだろうか。モール温泉につかり、七時前まで休む。これからの休み方で満足しようじゃないか。朝食を真白い森を眺めながら喰べ、ホテルのバスで帯広駅へ。駅前を歩いていたら見事に足をすべらせ、スッテンコロリン。女の子に笑われてしまう。こいつ、道内人じゃないの笑いである。七時五十二分発特急十勝で札幌方向へ。今日、もしもサツポロ 三沢の便が飛んでいなかったら小樽の土地を見に行こうと決めた。驚いた事に、座席に座っていたら後藤さん昨日の新田牧場のチーズを持って見送りに現われた。昨夜あれ程一人で発つからと言っておいたのに。しかし、さっきのスッテンコロリンは何であったのか。偶然といえば、ただの偶然だろうが、郵便配達夫シユヴァルはある日、道を歩いていて、小さな石につまづき、その石との、つまづきを啓示に、あの南仏の夢の宮殿を作り始めたんだからナア。何故、俺には何の啓示も出現しないのかね。これでは、ただのすべり損じゃネエか。十時前、汽車はしんゆうばり駅でストップ。今、車内放送で千歳空港よりの飛行機は午前中は全て欠航と知らせられた。札幌周辺は大雪のためレールのポイント切換えが不可能となつて、汽車も動けなくなっているらしい。これでは小樽にも行けないな。レヴィ・ストロースの悲しき熱帯、ちよとど船に閉じこもつたまま、ヨーロッパからブラジルへの途次の事の下り、を読んでいたところで、マア、ブラジルへの船旅程じゃないけれど、俺も雪の中、夕張に停まったまんまの汽車に閉じ込められるのも悪くはないかと、考えているところ。

今、発車の見込みは全く立っていないと放送があった。JR駅員は放送で仕切りに申し訳ありません、申し訳ないと繰り返すがこの大雪じゃ仕方ないだろう。こちらの方こそ、大雪になると天気予報で知りながら無理矢理北海道にやってきて、仕事をしちやおう、なんて考えて、申し訳ないと言わなくてはならないのは、こつちの方だ。弁当買い占めておいた方がいいなコレワ、と商社マン風の浅知恵を働かせている最中である。どうやって、東京に帰るかの算段した方がいいな。朝食、ホテルで取っておいて良かった。天の恵みだよ、この空白の時間は。私を待っていて下さる青森・下田町の方々には申しわけないが、思わずホホもゆるむね。又、車中放送あり、お急ぎのところ誠に申し訳ありません、と言う。もう全然お急ぎではないんだからねこつちは。しんゆうばりで車中に閉じ込もつて温泉気分なんだから、ほつといてくれつてえの。もう、服ぬいで、浴衣に着替えちゃおうか。只今十二列車はピクリとも動かない。極楽だ。

プラット・フォームを降り、駅の売店で味噌味ラーメンを作ってもらい昼食とする。駅舎に積もっている雪も大分、厚みを増した。十四時半列車は再び走り始めた。十五時列車は追分に着く。車内放送の情報より、これは帯広に戻った方が良からうと判断し、追分で降りた。駅前広場には冷たい風が吹いている。待ち合い室は人でごつた返している。敦煌空港を思い出すな。追分で釧路行特急大空なん号六時間遅れに乗って帯広に戻る。十八時過。

後藤さんに再会。北海道ホテルに戻る。坂本氏と北の屋台で食事。銀河ソバのオヤジはネパールに行つてしまったそうだ。そうだろうな。今日は、天の恵みの休日であった。しかし、休みには際限が無いのに御用心なんである。屋台でラーメン喰べて二十一時頃ホテルに帰って眠る。